

学力向上に向けた取組

函館市立恵山中学校

1 課題

- 校内研修の充実
- 言語環境の整備及び言語活動の充実

2 課題解決の具体策

- 積極的な研究授業の実施
- 授業評価の実施

3 取組の概要

① 積極的な研究授業の実施

いずれの授業（22年度は4回）とも生徒が「表現すること」を中心に、生徒同士の雰囲気作りを大切にしながら、自分から活動していく様子が見られるものだった。特に、

- 1 主体的に学び意欲的に取り組む
- 2 自分の考えを積極的に表現する
- 3 達成感や成就感（雰囲気作り）
- 4 低学力の生徒との関わり

をテーマに研究協議を行い内容を深めあった。

また、単元（題材）計画の中で「基礎・基本定着」「自己表現の場」「まとめ」等の時間を明確に位置付け、それらの内容を充実させること、再構成していくことについても話し合われた。「表現すること」に当たっては、思考力・判断力、結果的には知識による支え重要となるため「基礎・基本の定着を図る」ことの重要性が再認識された。さらに表現することを意識しての授業づくりを進めるため、全員が指導案を作成し交流することで研修を深めた。

② 授業評価の実施

- ・全校生徒対象に記名形式でアンケートをとる。
- ・対象教科は全教科で、年2回（1，2学期末）のアンケート

結果として、大きく目立って取り上げる項目はあまり見られず、ほぼ全ての項目で評価が高く、生徒は授業のあり方に満足している様子だった。授業の進行スピードや希望する授業の進め方など、生徒たちの考えを聞くには良い機会になったと思うので、学年傾向・教科傾向をふまえ、今後の授業の参考にすることとした。

4 成果と課題

- グループ活動やペアワークなど「学習形態の工夫」に関して、今年度2学年で行っている少人数での学び合いが一定の成果を上げており、今後は他の教科や他学年での実施も検討したい。
- これまで研究授業や研究協議の内容からすると、「表現力」を身につけさせるためのアプローチについてまだ他の力をつけさせること、さらなる研修を進め教師側の指導方法にも工夫を加えていくことなど課題点も多く見つけられた。
- 授業評価の内容で「質問の項目が適切であるか」や「質問の意図が生徒に伝わっているか」「生徒がどのような意識で回答しているか」など、実施に向けての改善点が考えられる。